

# マクダーミッドの吉成新社長にインタビュー、各部門の専門性活かし連携と決定即実行の事業展開を目指す

2024/08/26 金属産業新聞 8ページ 1200文字

マクダーミッド・パフォーマンス・ソリューションズ・ジャパン(株) (神奈川県平塚市) は6月30日にジュリアン・ベイショア社長が退任し、7月1日に吉成吾郎氏が代表取締役(社長)に就任した。現在までSAS (Semiconductor Assembly Solutions※接合剤関連) 事業に携わってきた吉成氏だが、SAS事業部門と同時に社全体のトップとして、めっき事業をはじめ各部門の専門的な特長を活かして協力できる体制づくりや、決定即実行な事業展開を目指している。

吉成代表取締役は1996年に接合剤の会社アルファ・メタルズ(現在の同社グループ内企業)の英国現地法人に入社し、はんだ製品・半導体向け材料・樹脂製品といったSAS事業に携わり、特にエレクトロニクス製品の接合剤には詳しい。

同社はSAS事業や一般めっきの他、表面実装用機能性めっき、グラフィックス、機能性フィルム事業部門を有している。

昨今ではプリント基板において一部品としてはめっき技術が、全体としては接合剤の技術が必要な事から両方を合わせて使用する機会が重要となっており、めっきと接合剤両方の技術・事業部門を持っている企業として、今後の半導体需要の高まり、そしてユーザーの開発期間の短縮化や難しい開発案件の協力を貢献できると期待している。

今回の代表取締役就任と今後の事業展開について吉成代表取締役は次のように話している。

一我がグループ・社は、多分野の専門家集団が部門という形をとっている、面が強い。この部門同士を連携させて、様々な材料や技術の相性・組み合わせを考え抜いた総合的かつ最適な提案をユーザーにできるのが特長だと思っている。

そしてユーザー層が製造している半導体も、めっき技術が必要な面と接合技術が必要な面のそれぞれの特長を鑑み、さらに半導体自体が最終製品(機械)に組み込まれる一部品でそれを踏まえて考えていく為には、持っている技術・知識は特化するだけでなく幅広くする事も重要となる。

そしてグループ内では開発とラボ(オープン実験室)を併設した施設がアメリカ・イギリス・ドイツ・インド・日本にあり、その他にも世界各地にある事業所で連携・協力できる体制を構築しているのも特長だ。

今回の代表取締役就任及び私自身としての事では、どの部門トップが次期代表取締役となるかとなった際、現時点で社内事業においてSAS事業部が最も成長している点、また私自身、海外での業務経験で培ったグローバルでの関係構築がある為、グループ全体との折衝がスムーズにできるとの理由もあって、代表取締役就任となった。

私としては前述の通り、多分野の専門家集団が部門という形をとっている、面を活かせる体制を目指している。

また私個人としては韓国で学んだ「決めたら即行動」の精神を実践し、どの部署も国際社会で生き残れるようサポートしていくことが大事だと思っている。

吉成社長



---

本サービスで提供される記事、写真、図表、見出しその他の情報(以下「情報」)の著作権その他の知的財産権は、その情報提供者に帰属します。  
本サービスで提供される情報の無断転載を禁止します。  
本サービスは、方法の如何、有償無償を問わず、契約者以外の第三者に利用させることはできません。  
Copyrights © 日本経済新聞社 Nikkei Inc. All Rights Reserved.